

ふるさと見て歩き

第15回

オカシマサマ



▲松沢口中組のオカシマサマは背中にだんごを背負っています

山方地域の盛金地区松沢口では、わら人形を作って虫送りをする「オカシマサマ」という行事が今でも続いています。

◇オカシマサマって？

旧暦七月十日には「オカシマサマ」と呼ばれるわら人形を作り、豊作を願う行事が行なわれていました。場所によっては「大助人形」、「ニンギョウサマ」などと呼ぶところもあります。鹿島神宮の神が東北征伐に行く際に従った兵士であるとか、稲につく害虫を送り出す「虫送り」の習俗であるなどと言われています。

オカシマサマとは、等身大のわら人

形のことで、その年収穫した小麦わらで作ります。半紙でいかめしい顔を書いたものを貼りつけ、トウモロコシの葉を衣とし、刀に見立てた篠に鏢として茄子の輪切りをつけたもの、兵糧として小麦まんじゅうやだんごを持たせました。

盛金地区の松沢口中組では、昔から断絶することなくこの行事が続けられています。現在は、月遅れの八月十日にオカシマサマとだんごを各家で作ります。現在は六十代以上の方が作ったり、その孫の世代と一緒に作ることが多いそうです。

松沢口ではオカシマサマを作るために今でも小麦を作っています。出来上

がったオカシマサマとわら一束をそれぞれ持ち寄り、午後五時くらいに田んぼの土手に集まります。このとき持ち寄りた藁を燃やして狼煙を上げ、周囲の人々への合図とします。地域によってはオカシマサマも燃やして、燃え残りを「虫除け」として田畑に立てる地域もあります。松沢口では燃やさずにそのまま田の畔に一年間立てておきます。

オカシマサマに刺してきただんごは交換して食べます。一串に七個刺したものを二串持つていく習慣で、各家ごとに味付けが違うのでそれも楽しみのひとつでした。他の地域では小麦まんじゅうを作る習慣のところが多いようです。だんごを食べながら歓談し、一時間ほどで解散となります。

◇オカシマサマふたたび

オカシマサマは多くの地域で行なわれていましたが、昭和四十年代以降、ほとんどの地域で断絶してしまいました。しかし、最近では復興させている地区もあり、また個人的に行っている家もあるようです。

盛金宿二地区で活動している「ゆかいな仲間会」では、八月十日前後の日曜日に行なっています。十五年ほど前に再興し、福祉施設や子ども会と共同でオカシマサマを作り、コンテスト

を開催するなどイベントとして楽しめるよう工夫をしています。舟生フォーラムでもほぼ同じ日程で、五年ほど前から子ども会や老人会を含み込んだ行事として再興しています。

出来上がったオカシマサマは、お盆が終わって片付けられるまで中舟生駅、下小川駅前や郵便局、公民館など地区の数ヶ所に立てられ、行き交う人々を見守ります。そしてお盆過ぎにはオカシマサマを片付けます。

近年、オカシマサマ作りに参加する子ども数が減って寂しいという声が地元から聞かれました。実りの秋を迎えるために欠くことのできなかった行事。参加して季節の移り変わりを感じてみませんか。(歴史民俗資料館)



▲松沢口中組の昭和58年のオカシマサマ